

Macky3(マッキースリー)はつらいよ！

私、生まれも育ちも信州松本です。北アルプスの雪解け水を産湯に使い、姓は三溝、名は牧夫、人呼んでミソサンとか Macky3 などと発します。

信州信濃は四方八方十六方、どっちを向いても山ばかりですが、松本市内には美味しい水の湧き出て誰でも水をもらえる井戸が24ヶ所もあります。松本市の水道水はよそで売られている浄水よりもうんと美味しいですし、市内24ヶ所の井戸水は水道水よりもはるかに美味しいです。大勢の市民達がしょっちゅう井戸水を汲みに行きます。この水で入れたコーヒーなどがとっても美味しいので喫茶店の人も良く来ます。

私が生まれたのは日本が太平洋戦争で敗北した前年、1944年4月でした。当時私の親父は国民学校の校長で、信濃教育会の方針に忠実に従って村の貧乏人や次男三男等の若者達に「お前等は満州に行きなさい。あそこに行くと自分の土地が手に入って金持ちになれるぞ。」と言い回って満蒙開拓を促進していました。天皇制に忠実な右翼だったんでしょうね。そんな時に生まれた私に「お前は大きくなったら満州に行って牛飼いになれ！」と言って「牧夫」と言う名前をつけたそうです。

私が幼い頃は戦後の食糧不足でした。思い起こせば今から半世紀以上前、滅多に出逢うことのない甘い物を食べたい時には家の周りの田んぼで満開に咲いているレンゲ草の花に蜜蜂がいっぱい飛んできました。そこで私はそのレンゲ田んぼに行って、運動靴を脱いで両手に片方ずつ持って蜜蜂を叩き潰します。でもけっして蜜蜂を殺してはいけません。生かさず殺さず潰します。さすが徳川家康はいいことを言いましたね。そこで弱り切った蜜蜂を指先でつまんでお尻を私の上着に触らせます。死にかけてはいてもまだ生きている蜜蜂は私の上着に針を差し込みます。そこで蜜蜂を引っ張って私の上着から離します。どなたもご存じでしょうが、蜜蜂の針は釣り針の様に「返し」が付いているので、針が私の上着からは抜けないでお尻から取れてしまいました。だから蜂に刺される心配がなくなって安心して体をつかむことが出来ました。次に蜜蜂の上半身と下半身を両手で引っ張ると体がちぎれておなかの中から小さな蜜の袋が出てきます。私がそれをいただいて口に入れると新鮮な花の蜜が口の中に広がって頑張った甲斐がありました。この様にして食糧難の少年時代を有効に過ごすことが出来ました。ですから今の私が何とか生きのびていられるのは蜜蜂様のおかげです。でも今になってよく考えたところ、階級社会がうんと進展している蜜蜂の中で私が殺し続けたのは働き

蜂でしたから結局は労働者階級ばかりでした。人生の始まりがこんな状態でしたから、死後に行くのはきっと地獄です。皆さんもどうか一緒に行きましょう。

男と言うものつらいもの、顔で笑って腹で泣く。いつか皆さんに喜ばれるような偉い人になりたくて、奮闘努力の甲斐ももなく、今日も涙の陽が落ちます。

近頃しょっちゅう思います「人生に後悔はつきものじゃないかしら」ってね。ああすれば良かった、こうすればもっと良かったかなあという後悔（こうかい）と、もう一つはどうしてあんなことをしてしまったんだろうという後悔の毎日です。でも月日がたてばどんどん忘れちゃう様です。今どきは認知症（まだらポケ？）でいろいろ忘れてしまっていますが、人に言いたい苦勞があって、間もなく行く予定の「あの世」はきっと地獄に違いないでしょう。

蜜蜂の労働者諸君、一緒にあの世に行きましょう。結構毛だらけ猫灰だらけ、地獄も天国もきっとあの世じゃなくてこの世にあるんですね。だから、天使も悪魔もこの世に居るってことでしょうね。

私は真っ赤な心で謝りたいんですが、難聴で補聴器をつけてはいても、それでも一番安い補聴器（たった「20万円！！」）なので良くは聞こえなくて、今日も涙の陽が落ちてきます。赤い赤いは何見て分かる。心の色が赤いからと私に近づかない人達はきっと安倍首相に騙されている人ばかり。

私とゆうものつらいもの、顔で笑って心で泣いています。生まれてから10回も引っ越して西に行きましても東に行きましても、土地々々の美男や美女達にごやっかいかけがちになった真っ赤な心の、元（大昔の）若者です。どうせ私はヤクザな元若者、ヤケのヤンパチ日焼けのなすび、色が白くて（心は真っ赤ですが）食いつきたいが、あたしゃ難聴であんまり聞こえませんよ。明日何するかは明日になんなきゃ決まらないでしょうねえ。

私は他人の哀しみや寂しさをよおっく理解できる人間になりたくて、あの世に行く前にこの世が平和になるように思い切り努力しています。

皆さん今後ともどうかよろしくお願い致します。